

平成28年度

ニホンザルに関する各種データ

サル被害状況

単位:千円

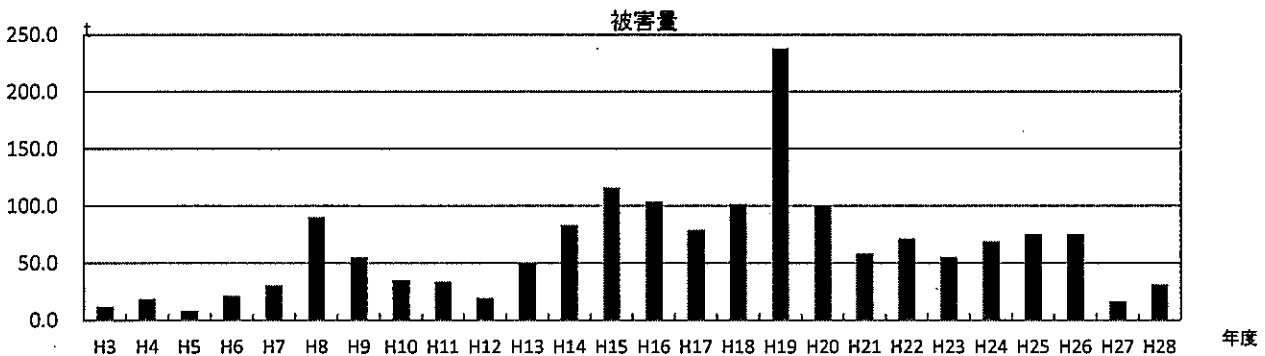
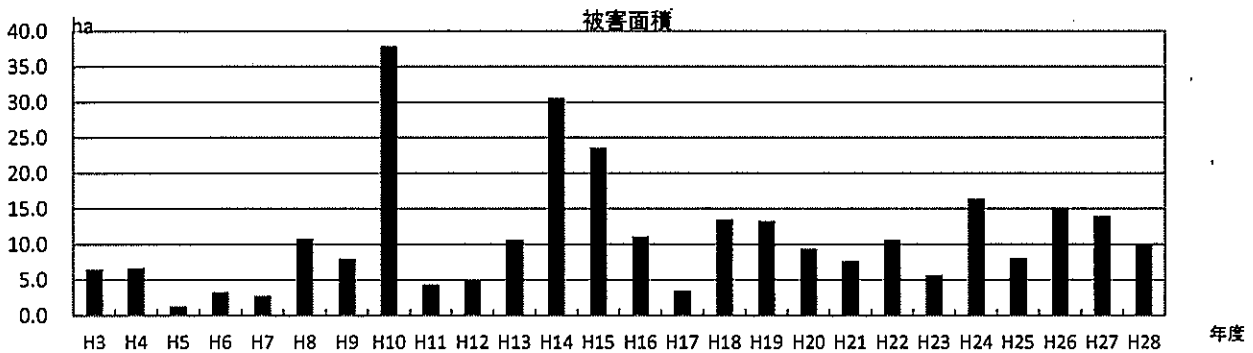
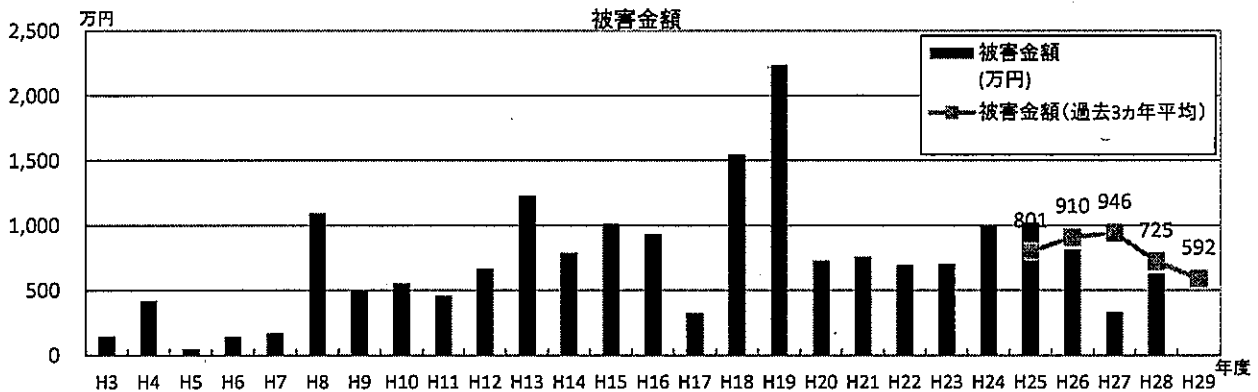
	被害金額 (万円)	被害面積 (ha)	被害量 (t)	被害金額(過 去3年平均)
H3	150	6.5	11.8	
H4	420	6.7	18.7	
H5	50	1.3	8.2	
H6	144	3.3	21.4	
H7	171	2.8	30.4	
H8	1,096	10.8	90.2	
H9	499	8.0	55.0	
H10	555	37.9	35.3	
H11	457	4.4	33.8	
H12	668	5.0	19.4	
H13	1,229	10.6	49.6	
H14	789	30.6	83.4	
H15	1,014	23.6	116.1	
H16	935	11.1	104.1	
H17	327	3.5	79.2	
H18	1,545	13.5	101.7	
H19	2,238	13.3	238.0	
H20	730	9.4	100.9	
H21	759	7.7	58.2	
H22	697	10.6	71.6	
H23	706	5.7	55.4	
H24	999	16.4	68.9	
H25	1,025	8.1	75.1	801
H26	814	15.2	75.1	910
H27	336	14.0	16.5	946
H28	628	9.9	31.2	725
H29				592

計画策定 市町村	H26		H27		H28		H29
	被害金額	目標	被害金額	目標	被害金額	目標	
仙台市	686	569	99	379	168	470	
白石市	3,010	2,709	2,398	2,158	2,468	2,220	
角田市			0	0	0	0	
蔵王町	20	—	41	—	40	10	
七ヶ宿町	3,264	2,930	44	2,930	2,740	2,930	
川崎町	238	166	340	238	347	346	
丸森町	132	250	34	250	0	100	
山元町	407	400	134	134	126	100	
大崎市	0	3	0	3	0	—	
加美町	379	340	265	212	391	243	
合計	8,136	7,367	3,355	6,304	6,280	6,419	

※蔵王町は平成29年度より計画対象となったため、平成28年度以前は参考。

1期計画
2期計画
3期計画
4期計画

※ 第二期宮城県ニホンザル保護管理計画については、東日本大震災の影響により、当初計画の5年を1年延長して6カ年で実施。
第三期計画は、鳥獣保護管理事業計画の最終年に合わせ、平成25年度から平成28年度までの4カ年計画で策定。



サル捕獲状況

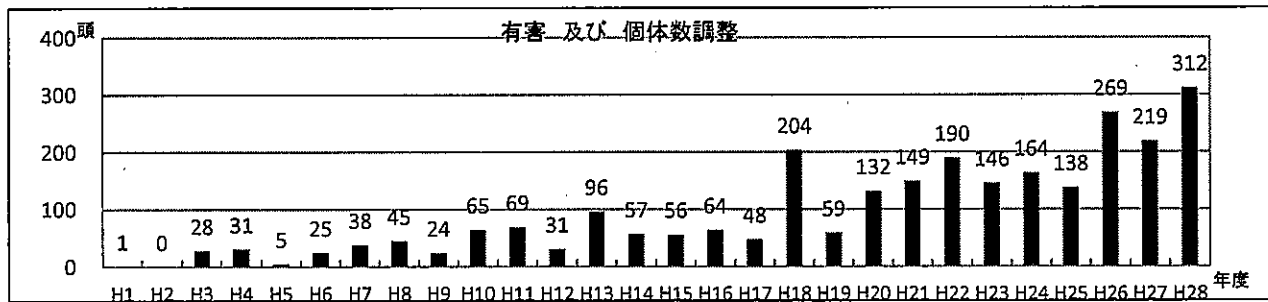
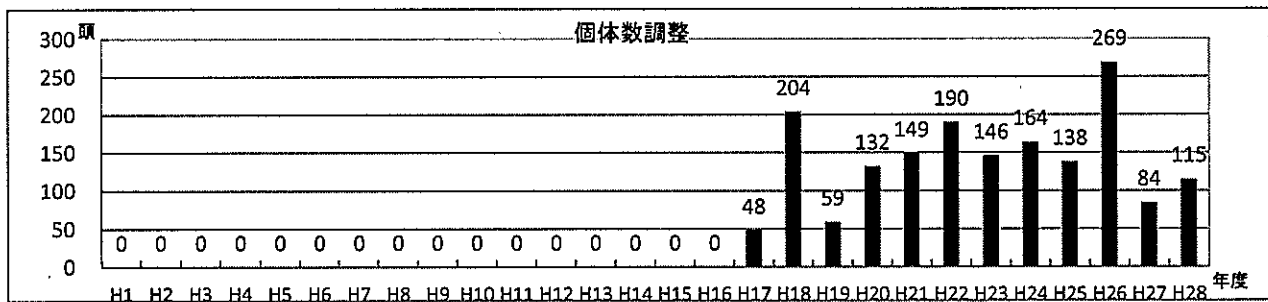
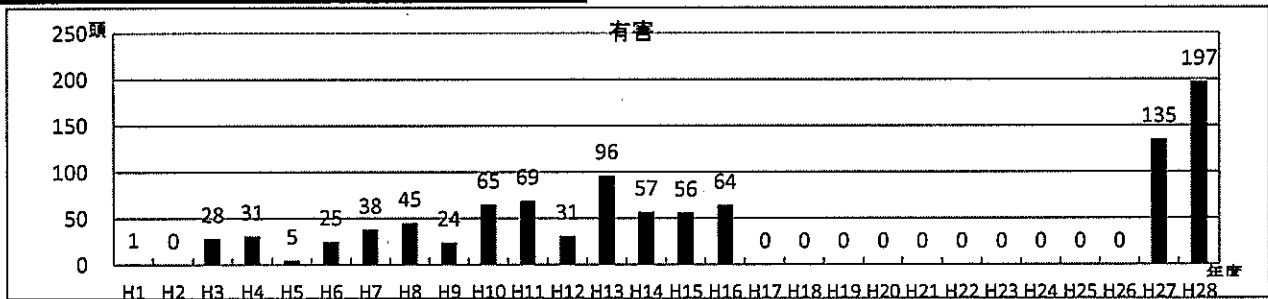
	有害	個体数調整	計
S62			
S63			
H1	1	0	1
H2	0	0	0
H3	28	0	28
H4	31	0	31
H5	5	0	5
H6	25	0	25
H7	38	0	38
H8	45	0	45
H9	24	0	24
H10	65	0	65
H11	69	0	69
H12	31	0	31
H13	96	0	96
H14	57	0	57
H15	56	0	56
H16	64	0	64
H17	0	48	48
H18	0	204	204
H19	0	59	59
H20	0	132	132
H21	0	149	149
H22	0	190	190
H23	0	146	146
H24	0	164	164
H25	0	138	138
H26	0	269	269
H27	135	84	219
H28	197	115	312

市町村	H26	H27		H28		H29
	捕獲数	捕獲目標	捕獲数	捕獲目標	捕獲数	捕獲目標
仙台市	70	130	85	130	115	130
白石市	17	50	10	50	15	50
角田市		25	0	15	0	15
蔵王町	—	—	3	—	—	50
七ヶ宿町	85	100	72	100	108	300
川崎町	46	50	19	50	30	50
丸森町	39	50	27	50	26	25
山元町		10	0	10	0	10
大崎市		3	0	3	0	—
加美町	12	30	3	30	18	30
合計	269	448	219	438	312	660

仙台市の115頭捕獲のうち、3頭は発信器装着のため放獣、2頭は発信器装着個体だったため放獣(計5頭放獣)
七ヶ宿町の108頭捕獲のうち、10頭は発信器装着のため放獣
丸森町の26頭捕獲のうち、2頭は発信器装着のため放獣

※ 宮城県ニホンザル保護管理計画策定以前(H16まで)は、有害鳥獣捕獲により実施。
第一期計画策定以降は、計画対象区域市町村については個体数調整、計画対象区域以外の市町村は有害鳥獣捕獲により実施。

※ 第二期宮城県ニホンザル保護管理計画については、東日本大震災の影響により、当初計画の5年を1年延長して6年間で実施。
第三期計画は、鳥獣保護事業計画の最終年に合わせ、平成25年度から平成28年度までの4カ年計画で策定。



狩猟・有害鳥獣捕獲等による捕獲頭数の把握（ニホンザル）

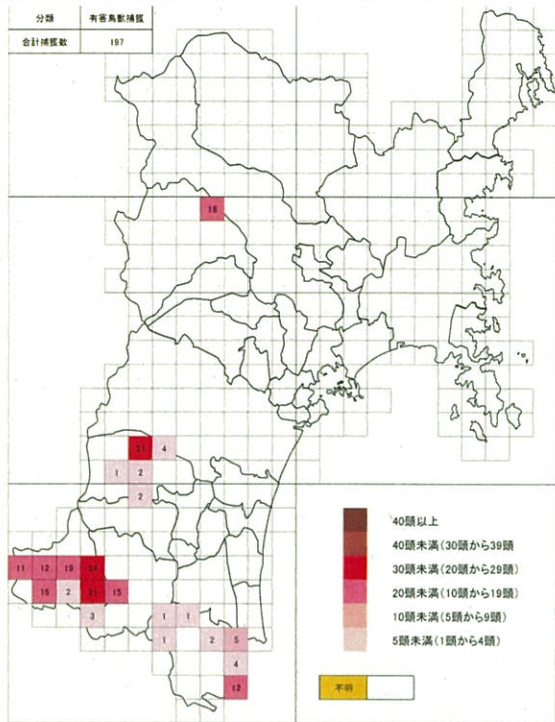


図 有害鳥獣捕獲

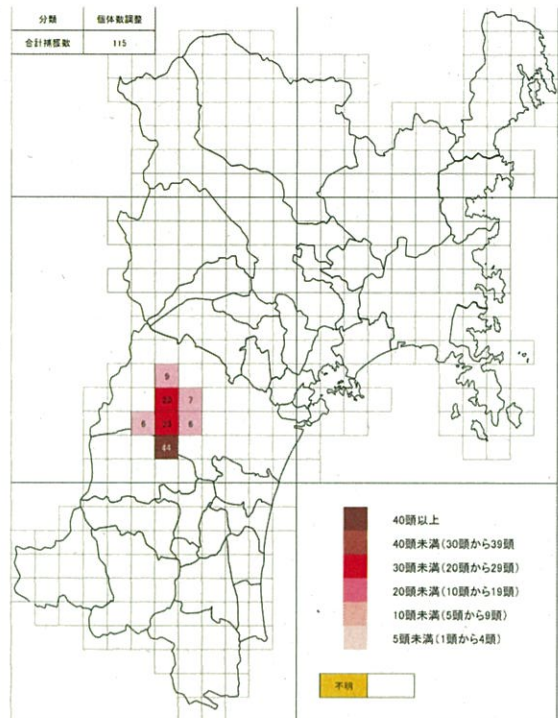


図 個体数調整

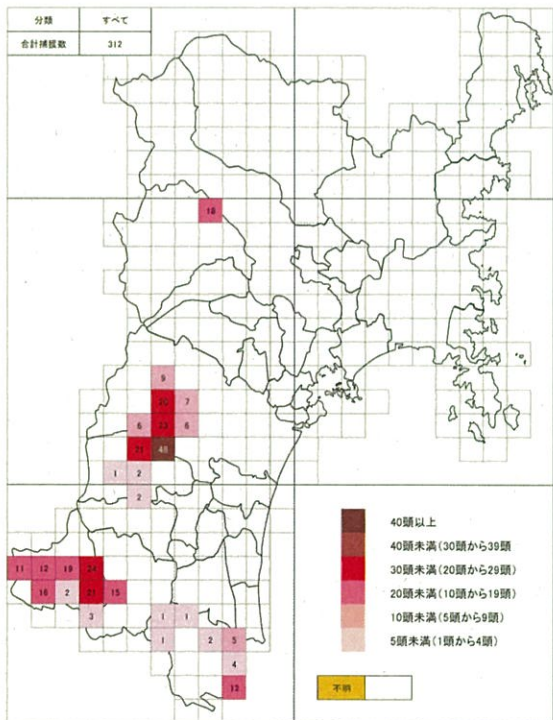


図 すべて

宮城県ポピュレーション変遷

単位：年度，頭

名称		加美	仙台・川崎	七ヶ宿	白石	丸森西部	丸森東部	大崎	ポピュレーション群	ハナレザル	内地計	金華山	合計
H16	群数	3	10	7	2	詳細不明		1	23	-	23	6	29
	頭数	100	560	440	80	詳細不明		50	1,230	290	1,520	230	1,750
H17	群数	3	11	7	2	詳細不明		1	24	-	24	6	30
	頭数	110	580	360	80	詳細不明		60	1,190	300	1,490	210	1,700
H18	群数	3	12	7	3	2		1	28	-	28	6	34
	頭数	130	650	370	120	100		60	1,430	380	1,810	245	2,055
H19	群数	3	12	7	3	1	1	1	28	-	28	6	34
		3	12	7	3	1	(2)	1	(29)	-	(29)	6	(35)
	頭数	140	548	394	140	30	100	50	1,402	420	1,822	219	2,041
H20	群数	3	13	7	3	1	1	1	29	-	29	6	35
		3	13	7	3	1	(2)	1	(30)	-	(30)	6	(36)
	頭数	150	559	413	130	30	100	30	1,412	395	1,807	249	2,056
H21	群数	3	14	7	3	1	2	1	31	-	31	6	37
	頭数	150	589	501	130	30	150	20	1,570	471	2,041	254	2,295
H22	群数	3	15	10	3	1	2	1	35	-	35	6	41
	頭数	120	614	666	130	26	150	7	1,713	514	2,227	243	2,470
H23	群数	4	14	10	3	1	2	1	35	-	35	6	41
	頭数	133	639	609	205	30	150	2	1,768	530	2,298	259	2,557
H24	群数	4	17	12	4	1	2	-	40	-	40	6	46
	頭数	145	684	706	265	30	146	-	1,976	593	2,569	264	2,833
H25	群数	4	17	13	5	1	2	-	42	-	42	6	48
	頭数	145	744	712	315	31	146	-	2,093	628	2,721	239	2,960
H26	群数	5	19	13	7	1	3	-	48	-	48	6	54
	頭数	176	808	694	380	31	215	-	2,304	691	2,995	305	3,300
H27	群数	5	19	13	7	1	3	-	48	-	48	6	54
	頭数	176	811	740	330	31	197	-	2,285	686	2,971	277	3,248
H28	群数	5	20	13	7	1	4	-	50	-	50	6	56
	頭数	188	847	730	365	18	147	-	2,295	687	2,982	269	3,251

※ 出典：ニホンザル保護管理事業報告書

※ 群数の（ ）の数字は、不明群を加算した数値である。

県内の群れの変遷 (H16～H28)

ホビユ レーショ	群れの名称	評価	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
加美	小野田A群	A～B	20～40	50	30	60	60	60	50	40	50	50	50	50	50	
	小野田B群	B～C	10	10	20	20	30	30	30	20	20	20	30	30	38	
	宮崎A群	E	40～50	50	56	60	60	60	40	40	40	40	40	40	40	
	寒風沢の群れ	A～B	-	-	-	-	-	-	-	33	35	35	29	29	29	
	宮崎B群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	27	31	H26年度追加
	奥新川A1群	WF		70	50～60	44	42	24	24	16	19	16	16	16	16	
	福岡の群れ		100				9	6	3	-	-	-	-	-	-	H23.5全頭捕獲に より消滅
	奥新川A2群	WF		40	22	9	9	13	13	14	14	14	12	16	12	
	青下の群れ	F	-	-	-	-	-	-	14	14	15	15	21	27	27	H23年度追加
	奥新川B1群	C	30～40	30～40	45	40	45	36	42	45	48	59	59	59	59	
	奥新川B2群				15	10	10	10	11	10	4	-	-	-	-	H26.2消滅
	新川不明群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	50	50	↓	H25年度追加, H28 高倉山B群に整理
	秋保大滝A群	WF	60	65	65	41	44	30	25	28	20	18	14	18	18	
	秋保大滝B群	WF	35	31	35	10	8	11	10	8	10	12	14	13	12	
	定義の群れ	C	40	45	44	39	42	49	52	53	53	45	50	50	↓	H28年分裂(定義 A・B群)
仙台・ 川崎	定義A群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	
	定義B群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	
	二口A群	D～E	70	73	80	80	90	90	100	100	65	65	65	65	65	
	二口B群	A～B	-	-	-	-	-	-	-	20	20	35	35	35	35	
	高倉山A群	F	70	80	100	90～100	100	100	100	100	40	44	44	44	44	
	高倉山B群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	30	30	31	31	50	元奥新川不明群 (H28に整理)
	高倉山C群	E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	元高倉山B群 (H28に整理)
	関山峠の群れ	B	40	30	40	40	50	50	45	45	45	45	37	37	45	
	太郎川の群れ	D～E	30～40	50	50～60	60～70	45	40	45	46	46	46	50	50	50	
	本砂金の群れ	F	-	-	-	-	-	50	50	80	95	86	80	80	80	

県内の群れの変遷 (H16～H28)

ホビュレーション	群れの名称	評価	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
七ヶ宿	三森山の群れ	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	80	80	100	100	100	
	笹谷峠A群	E	60~65	60~65	60~65	60~65	60~65	80	80	80	80	80	70	70	70	
	笹谷峠B群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	30	30	H26年度追加
	青根の群れ	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	20	17	H26年度追加
	七ヶ宿A群	E~F	67	68	63	52	63	66	37	31	37	39	25	36	36	
	七ヶ宿B群	E~F	59	61	55	58	48	63	59	51	53	51	49	37	51	
	七ヶ宿C群	E~F	82	43	51	71	78	82	67	60	59	49	39	52	52	
	七ヶ宿D群	E~F	74	56	68	68	62	64	93	94	118	117	121	120	121	
	七ヶ宿E群	E~F	78	66	69	72	81	102	137	137	78	61	62	63	38	
	七ヶ宿F群	E~F	38	43	36	38	42	79	76	51	71	48	31	57	55	
	七ヶ宿G群	E~F	23	26	31	35	39	45	54	38	55	53	53	55	56	
	七ヶ宿H群	調査中	-	-	-	-	-	-	68	61	52	54	54	57	57	H23年度追加
	七ヶ宿I群	調査中	-	-	-	-	-	-	49	53	56	53	69	67	66	H23年度追加
七ヶ宿J群	調査中	-	-	-	-	-	-	26	33	49	49	53	53	52	H23年度追加	
七ヶ宿K群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	49	51	27	27	37	H24年度追加	
七ヶ宿L群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	29	41	60	60	53	H24年度追加	
七ヶ宿M群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46	51	56	56	H25年度追加	
白石	戸沢の群れ	E~F	45	50	40~50	50	50	50	85	85	85	85	90	101	110	
	猿鼻の群れ	E~F	不明	30	不明	30	30	30	30	60	60	60	60	35	35	
	江志前の群れ	F	-	不明	40~50	60	50	50	50	60	100	100	100	64	80	
	苗振不明群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20	20	20	20	H24年度追加
	新町群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	50	50	60	元新町不明群 (H28に整理)
	上戸沢の群れ	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	30	30	元上戸沢不明群 (H27に整理)
江志前不明群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	30	30	H26年度追加	

県内の群れの変遷 (H16～H28)

ホビュ レーション	群れの名称	評価	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	備考
丸森西部	鳴瀬右岸群		50	60	40～50	40～50	30	20	7	2	-	-	-	-	-	H24年度未消滅
	耕野の群れ	WF	不明	不明	30～40	30～40	30～40	30	26	30	30	31	31	31	18	
丸森東部	青葉の群れ	調査中	不明	不明	30～40	30～40	30～40	50	50	50	50	50	50	32	41	
	大内の群れ	F	-	-	不明	60～70	60～70	100	100	100	96	96	155	155	↓	大内A1・A2に整理
	大内A1群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70	元大内の群れ(H28に整理)
	大内A2群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	元大内の群れ(H28に整理)
内地計	大内B群	調査中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	16	元大内分設群(H28に整理)
	50							1,570	1,713	1,768	1,976	2,093	2,304	2,285	2,295	
	A		30	26	34	28	36	50	37	56	56	48	63	58	66	
	B1		21	22	30	26	34	48	34	42	40	35	48	50	51	
	B2		13	10	15	14	17	20	19	27	24	25	31	32	23	
	C1		20	19	19	13	18	23	15	25	25	14	13	11	22	
C2		20	16	17	16	19	29	29	20	26	26	28	31	29	29	
D		62	63	68	65	70	84	64	83	83	93	89	119	97	78	
計		166	156	183	162	194	254	189	259	264	239	305	277	269		

※ 出典：ニホンザル保護管理事業報告書(宮城県委託)
 ※ 群れの名称欄の()の数値は、不明群を加算した数値である。

ニホンザルの群れ評価の判定基準

評価項目	人に対する反応	農地への出方	住宅地への出方	各種威嚇に対する反応	追い上げのしやすさの程度*
A	数 100m の距離があっても接近して来る人の姿を見れば逃げる	出設しない	出設しない	威嚇する前に逃げ去る	①上流側にはいない。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②良好。農耕地がない。
B	人との距離が 50～100m になると逃げる	時に群れのオスが出設する	出設しない	強力花火を撃つとただちに逃げ去る	①上流側にはいない。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②良好。農耕地はわずか。
C	人との距離が 50m 以内になっても逃げないことがある	時にオトナメスも出設する	警戒しながらも住宅地のすぐ近くまで来ることがある	強力花火だとゆっくりと、銃器を使用すると急速に逃げる	①上流側にはいない。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②良好。農耕地や人家が少しある。
D	追い払ったら逃げるが、そうしなければ人を無視する	頻繁にオスやオトナメスが出設する	移動時に住宅地を通過する	強力花火や銃器等を併用するとゆっくりとだが逃げる	①上流側にはいない。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②やや良好。農耕地や人家がかなりある。
E	追い払っても遠くへは逃げずに身を隠すだけのことが多い	頻繁にコドモやアカンボウも出設する	休息時にも住宅地の人工物を利用することがある	強力花火や銃器等を併用しても逃げない個体がいる	①上流側にいる。下流側にはいる場合とない場合がある。 ②森林の面積より植林地・農耕地・宅地等の面積が上回る。
F	人を恐れず、すぐ近くに身を隠すだけである	常に群れの全員が出設する	移動や休息に頻繁に利用し、軒下につるした農作物まで採食する	なにを使用しても近くにとどまり、移動方向を変えない	①上流側にいる。下流側にいない。 ②植林以外の森林面積が多くなく、農耕地や人家が入り組んで存在する。
WF	逆に人を威嚇したり攻撃する場合もある	農地に居座った状態になる	家屋内まで侵入して食物をあさったり、人の手から食物を強奪さえる	あらゆる威嚇道具への対処法を学習し、逆に人に向ってくこともある	①上流側にいる。下流側にいない。 ②平坦な地形で植林以外の森林面積がほとんどなく、農耕地と人家が連続して存在する。

*:①上流側と下流側の隣接群の存在, ②追い上げ目標地域の森林の状態

注) WFレベルを新たに追加設定した背景には次のような諸事情がある。

- 1) 群れの一部が市街地にまで進出している。
- 2) 群れ又は群れの一部が市街地を含む住宅密集地に遊動域を構えている。
- 3) 農業被害以外の生活被害が多発化しつつあり、人的被害が発生する危険性もきわめて高い。

このような地域は、平坦な地形が多くかつ人口密度が高いことから「銃器の使用ができないこと」、高齢者や乳児・幼児への悪影響から「爆音の強力な花火等の使用もできないこと」など、追い上げはもとより追い払いすら困難な状況にある。

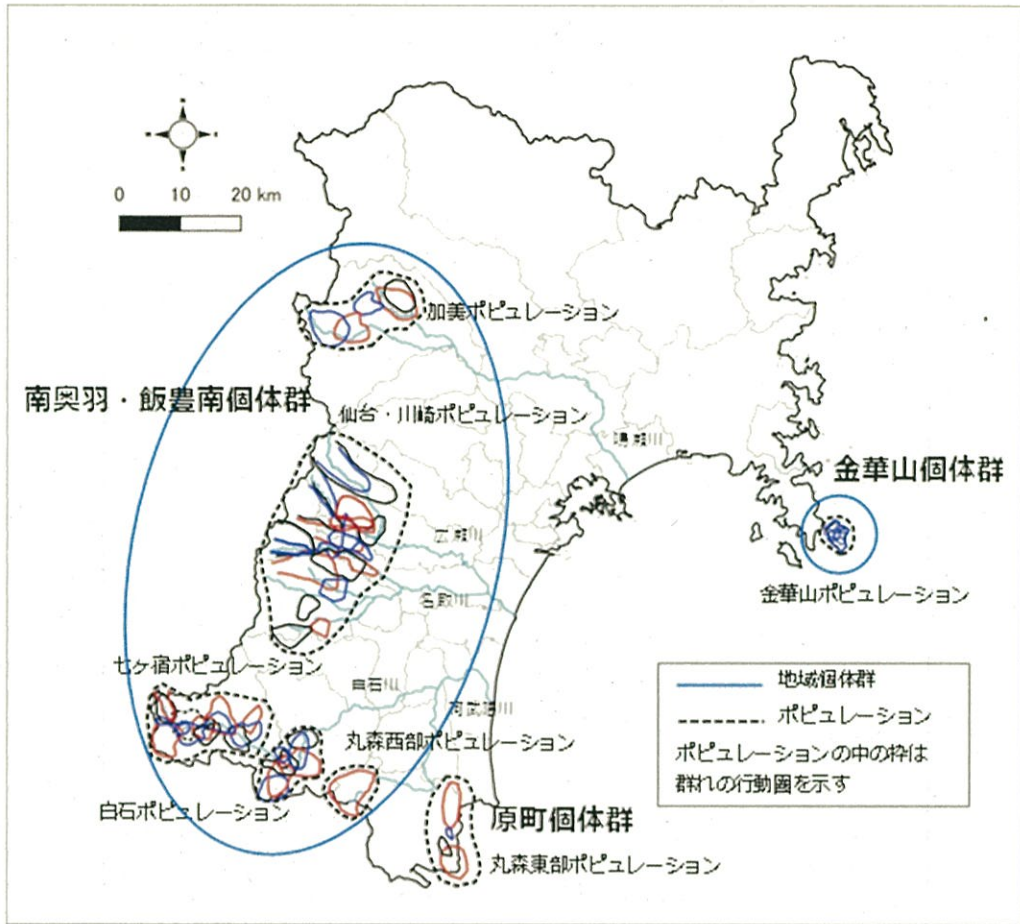


図 宮城県における群れの空間配置

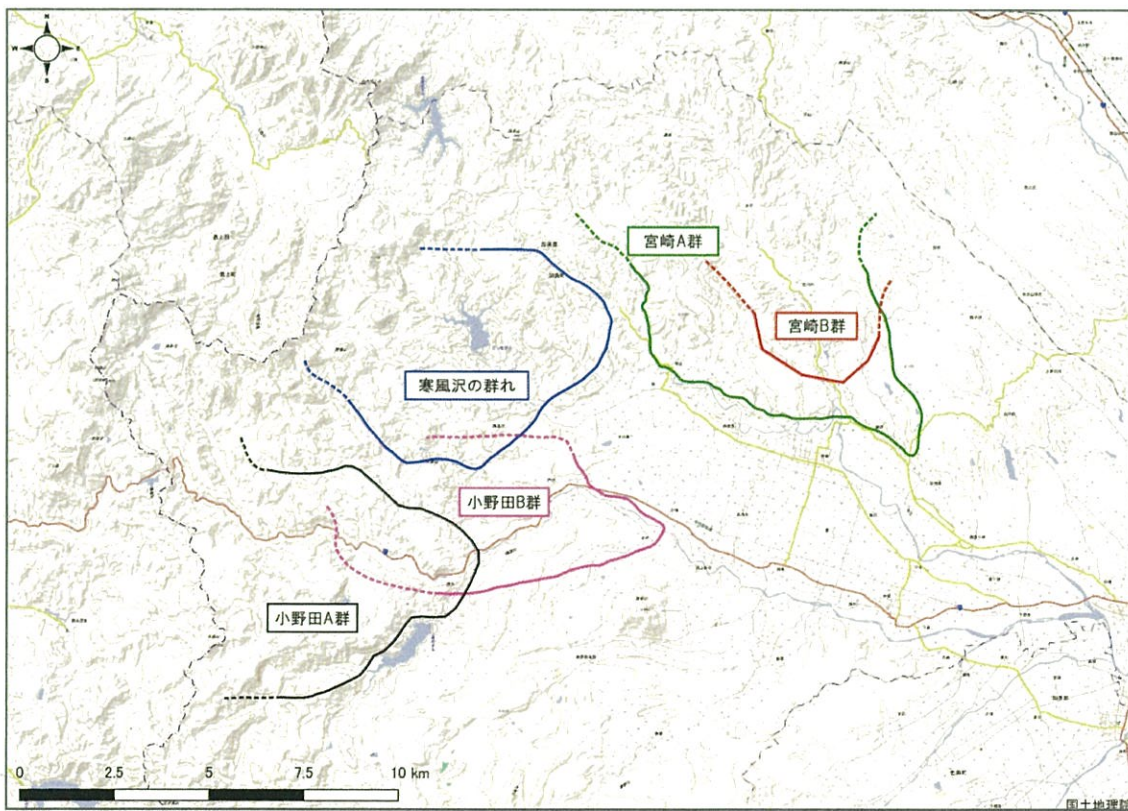


図 加美ポピュレーションにおける群れの冬季推定遊動域

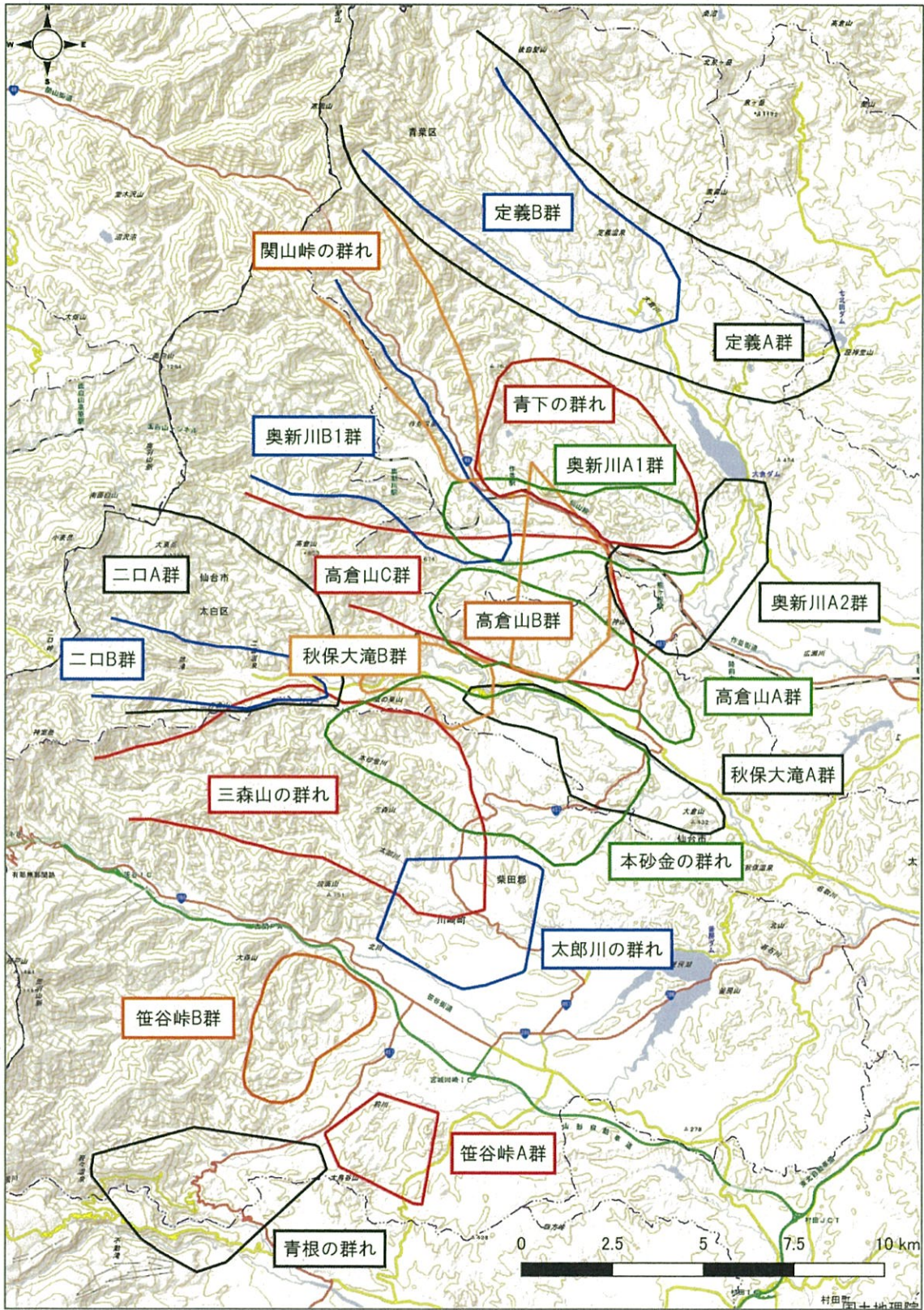


図 仙台・川崎ポピュレーションに属する 20 群の推定遊動域

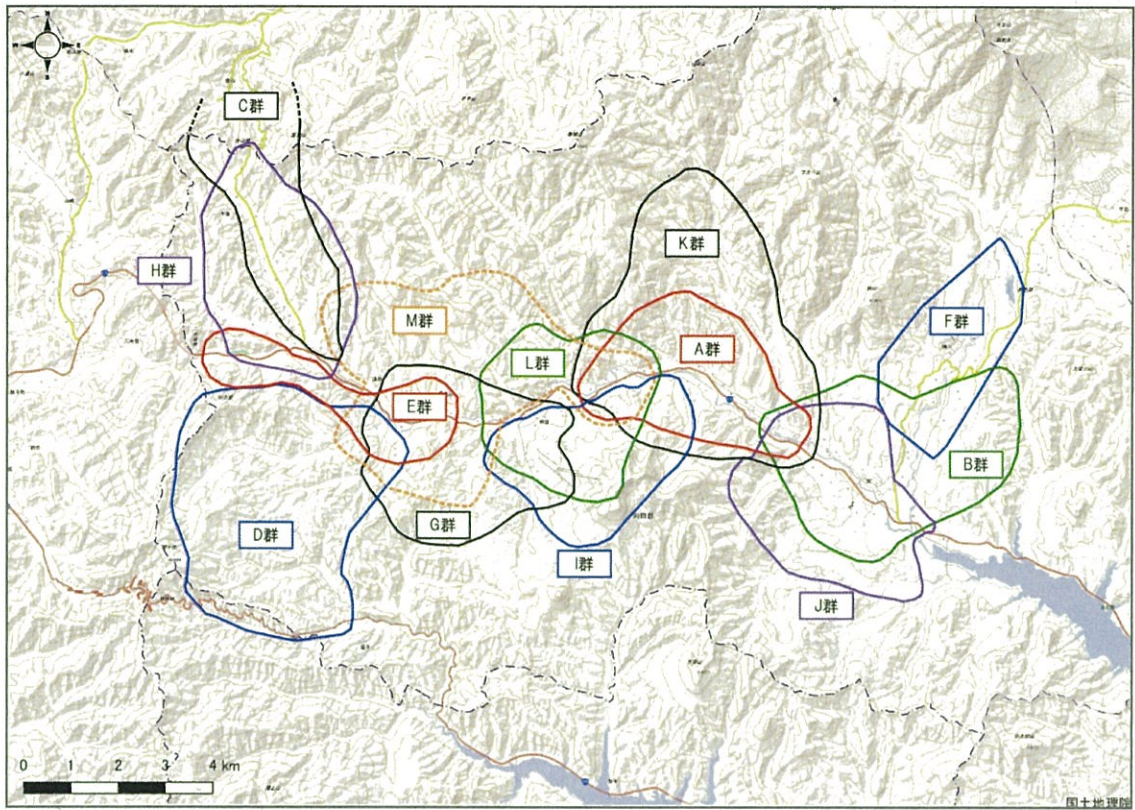


図 セケ宿ポピュレーションに属する13群の推定遊動域

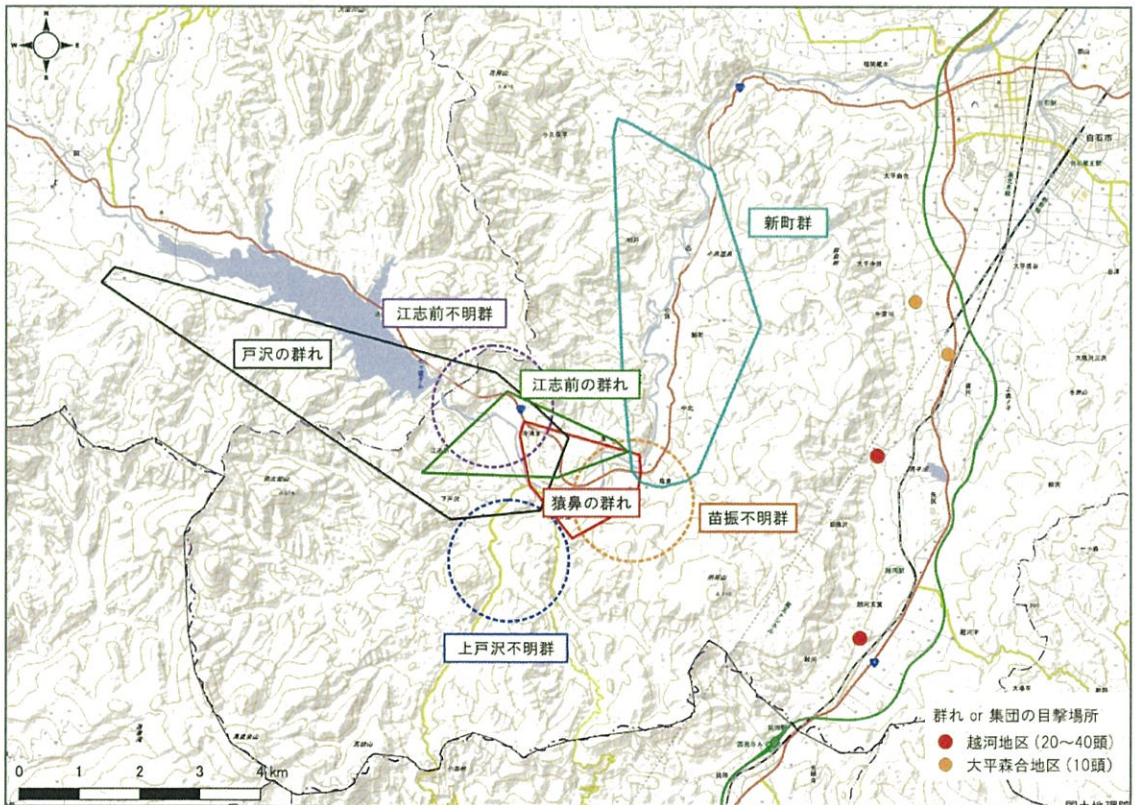


図 白石ポピュレーションに属する7群の(暫定的な)推定遊動域と越河地区と大平森合地区の群れもしくは集団の目撃場所

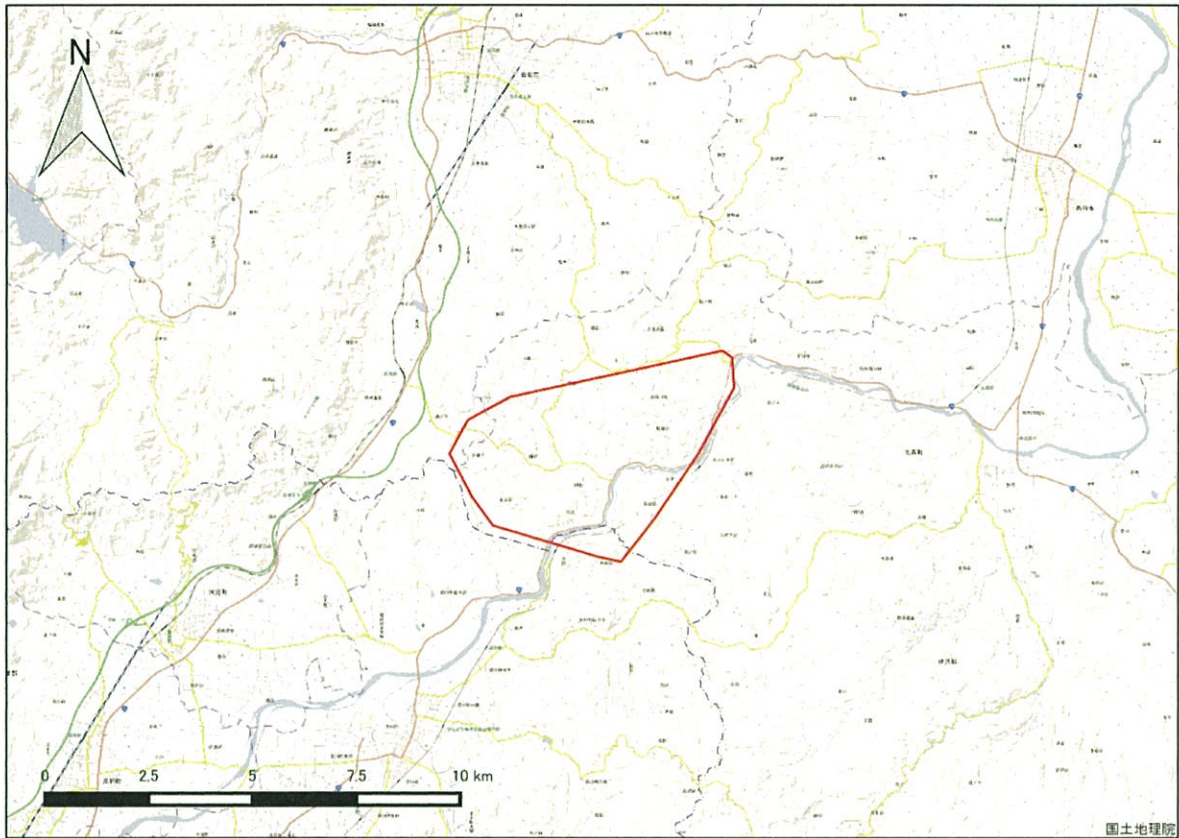


図 丸森西部ポピュレーションに属する「耕野の群れ」の推定遊動域

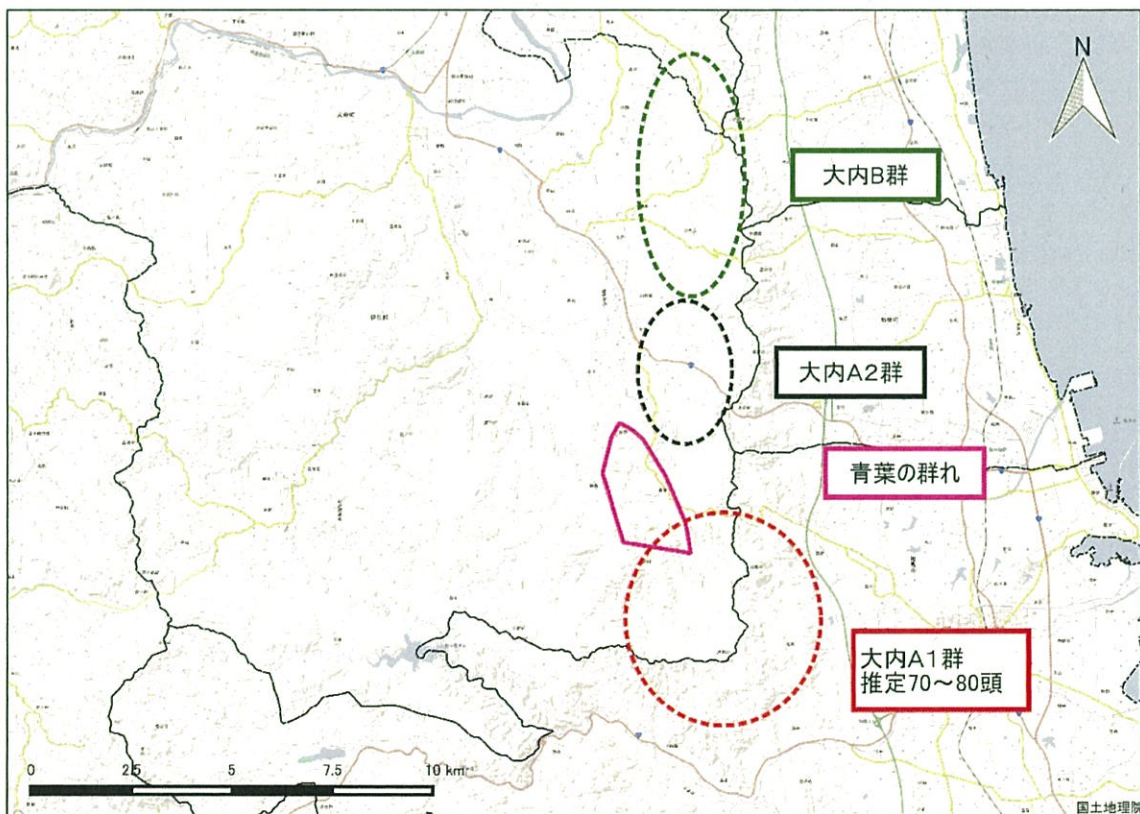


図 丸森東部ポピュレーションに属する4群の推定遊動域